

記念シンポジウム

日時 10月4日（土）14:50～16:30

会場 奈良県橿原文化会館 大ホール

大学生と考える！ジェンダー平等って何ですか？ ～自分たちの未来を変えるために～

趣旨

若者は今何を考え、何を求めているのか。未来を担う若い世代にとっての生きやすい社会を実現するため、彼らのジェンダー意識や課題を理解し、今の私たちに何ができるか、具体的なアクションを考えました。

第1部：基調講演

「データから見る、今の若者のジェンダー観について」

講師：^{さくらい あやの}櫻井 彩乃（一般社団法人GENCOURAGE代表理事）

私は1995年生まれで、女性の地位向上をめざしたあの北京会議の開催年と同じ年なんです。この30年で、日本や世界はどれだけジェンダー平等に近づいたのか。私自身、この問いに向き合って活動しています。

私が立ち上げたGENCOURAGE（ジェンカレッジ）は、主に30歳以下の若い人と一緒に、日本に存在するジェンダーギャップを、私たち自身のアクションで変えていくための学びと行動の場を提供しています。活動の柱は、単なる勉強会ではなく、若者の意見をしっかりと政策に反映させることです。

実際、2020年以降、私は内閣府男女共同参画局や、財務省の政府税制調査会、財政制度等審議会といった場で、税制や古い制度にジェンダー視点を導入したり、こども家庭庁の立ち上げにも関わり、早い段階からジェンダーの刷り込みが行われないようにする取り組みもしています。奈良県では「子ども・若者の意見をどうやって聞いて、取り組みに反映していくか」というアドバイザーも務めています。

私がなぜこの活動に人生を捧げようと思ったのか。原点は、高校2年生のときです。同級生から「女は黙って可愛くしとけばいいんだよ」と言われて、私は衝撃を受けました。幸いなことに、私は「女の子だからこうしなさい」とあまり言われずに育ったのですが、この一言に「なぜ同じ人間なのに



性別で人生の選択肢が違うんだろ？」という疑問が湧いたんです。

そして、世界には女の子というだけで殺されたり、教育を受けられない子がいると知って、「性別に関係なく選べる社会」のために自分の人生を使おうと決めました。

活動を通して、女性の権利のために尽力されてきた「先輩方」の存在が、私たち若者を支えてくれていると実感しました。ジェンダー平等の鍵は、この先輩方の活動と、私たち若者の新しい視点を掛け合わせることだと確信しています。ただ、残念ながら、世界全体でジェンダー格差が完全に解消されるまでには、あと123年もかかると言われています。次の世代に不平等な社会を残したくない、この思いで活動を続けています。

若者のジェンダー意識に関するリアルなデータ

「今の若い人たちはジェンダー平等の意識が高いんでしょ？」と思われがちですが、データを見ると「そうとも言えない」側面も見えてきます。

まず、日本財団の6カ国比較調査を見ると、日本の若者が考える最も重要な課題は、1位が「少子化」(47.6%)、2位が「高齢化」(39.3%)、3位が「経済成長」(25.2%)で、「ジェンダー格差」は5位(19.3%)なんです。他国と比べると、日本独自の少子高齢化や経済の課題が、若者の関心事として強く出ていることが分かります。

一方で、働き方や家庭観を見ると、少しずつ変化が見えます。厚生労働省の調査では、「家庭よりも仕事を優先する」(69.9%)や「自分のキャリアよりも家庭を優先する」(72.9%)といった項目について、約7割が「男女は関係ない」と回答しています。ただ、国際的に見ると、「夫婦両方が働いていることが一般だ」という考え方は、日本が66.6%と、他国(アメリカ、イギリス、中国など)より低いんです。特に、学歴や所得が高い女性は結婚相手を見つけにくいと思っている人が、日本は55%と、他国に比べて顕著に低いのも特徴的です。これは、日本社会に根強く残る「女性らしさ」や「男性役割」のステレオタイプが影響しているのかもしれない。

しかし、企業選びの意識ははっきりしています。電通総研コンパスの調査によると、就職先を選ぶ上で、給与や職場の雰囲気次に、SDGsに対する姿勢や取り組みを重視するという回答が19.1%に上っています。特にSDGsへの取り組みが企業選びに「とても影響する」または「少し影響する」と答えた就活生は9割を超えています。彼らが重視する最大の理由は、「将来性のある企業だと判断できるから」(54.6%)なんです。

さらに、SDGs17の目標の中で、最も関心が高いのが「5.ジェンダー平等を達成しよう」(35.7%)です。これは、若者が社会を変える力を持つ企業や目標を重視する「エシカル就活」の傾向を裏付けています。

刷り込まれるステレオタイプと「静かなバックラッシュ」

若い世代はジェンダー課題に敏感なんですけど、同時に、早い段階からジェンダーステレオタイプが刷り込まれているという問題もあります。

東京都の調査(令和5年度)によると、進路・職業について「性別による思い込みがある」と答えた高校生は53.9%で、小学生の41.1%よりも割合が高くなっています。特に、理系科目は男性の方が得意だと女性で33.2%が思っており、文系科目は女子の方が得意だという意識も見られます。家事・育児についても、男女ともに約5割が「女性の方が向いている」と考えているんです。

こうした思い込みは、主に親・保護者(55.9%)からの影響が非常に大きいことがわかっています。私たちはアンケートやヒアリングを通して、「男は泣くな」「女の子なんだから可愛くしとけばいいんだよ」といった、過去に言われた「男らしく/女は〇〇」という言葉に今もモヤモヤを感じてい

第2部：トークセッション

「ジェンダー平等の実現に向けて、今日から私ができること」

コーディネーター：櫻井 彩乃

パネリスト： 2025年5月24日に開催されたプレイベント「1day ジェンカレ in 日本女性会議2025檜原」参加者の中から選出された大学生

石元 優芽 (奈良大学 文学部 1年)

福田 実莉 (奈良教育大学大学院 修士課程 2年)

沼田 彩希 (帝塚山大学 法学部 2年)

金城 光 (帝塚山大学 法学部 2年)

櫻井

ここからは、5月の1day ジェンカレ in 日本女性会議2025檜原に参加し、その後アクションをした4人の学生さんと一緒にパネルディスカッションをしていきたいと思います。5月のイベントにどんなことを思って参加し、その後どんなことをしたのか、お話を聞いていきたいと思います。

金城

私は大学の先生から「1day ジェンカレ」を紹介してもらい、興味があったので参加しました。ゼミでもジェンダーについて勉強していますが、ゼミでは仲間内での感想を言い合うだけです。ジェンカレに参加したことで、今まで勉強してきた仲間たちと、参加してくださった他の方たちとも意見を交換できたので、とても良かったと思っています。

ジェンダー平等の実現に向けて MY ACTION REPORT

帝塚山大学 法学部法学科 2年生
金城 光 (g24015)

《感想》

今回は簡単なアクションをしました。今の自分には何が出来るだろうと考えたときに小さなことでいいからジェンダーについて知ってほしいという思いがあったため、友達にジェンダーについて説明することにした。友達にはジェンダーについてどこまで知っているのか知るために質問を行い、その後説明を行った。自分は流石にジェンダーについて知っているだろうと思っていた。だが、詳しく知っている人が多く自分自身でも驚いた。小さなことでも行動することは大切であり、小さな行動でもする事が大切だと実感した。アクションをやったよかったと思う。

ジェンダー平等に向けて取り組んだこと

取り組んだこと

私の友達に対してジェンダーを理解してもらえるように話し合いをした。

テーマ選定理由

ジェンダー平等になるためにはジェンダーについてたくさんの人達に知ってもらう必要があると考えた。

アクション選定理由

今の自分にできることから始めようと考えたからである。

ジェンダーについて心境の変化を調べてみた

- 「ジェンダーについて知っている？」と友達に聞いてみた。

S.Rさん

「ジェンダーって言葉初めて聞いた」

K.Mさん

「聞いたことあるけど、詳しくは分からない」

K.Kさん

「どっかで聞いたことがある」

Y.Kさん

「分からない」

*自分の身近な人でジェンダーについてあまり理解をしていないことが分かる。また知っていたとしてもあまり興味を持たない人があることが分かった。



ジェンダーについて心境の変化を調べてみた

- ジェンダーについて自分が学んできたことを自分なりに説明、写真を使って友達に説明した。

S.Rさん

「自分の知らないことがまだまだあるのだと分かった。」

K.Mさん

「前よりジェンダーについて理解することができた。もっと知りたいと思った。」

K.Kさん

「高校で勉強した時よりも深い進歩をしている。」

Y.Kさん

「ジェンダーについて分かった。」

*ジェンダーは自分だけ学ぶのではなく周りの人たちも知る事により、ジェンダーはどれだけ大切なものなのか広めることが大切ではないかと考えた。

沼田

私も大学のゼミの先生から紹介していただいて参加しました。以前からジェンダーに関して興味がありました。自分の考えを共有し、その場で他の人の意見を聞いて、私の中で考えつかない意見もあったのでなるほどと思い、学びになってよかったですと感じています。私が元々興味を持ったのは、性別によつての役割とか、性別に沿ったことをしなきゃいけないとかあまり思わなかったからです。性別とは違う心の性別のような形にも共感できる場所があったので、興味を持ちました。

ジェンダー平等の実現に向けた MY ACTION REPORT

1dayジェンダーイベントに参加し、ジェンダー平等の実現に向けて、私は今回ジェンダーで学んだ事や自分の意見などを家族や友人に話をしました。

自己紹介

名前： 沼田彩希

所属： 帝塚山大学法学部法学科



アクションの様子

■友人
友人たちは賛否両論だった。「好きにしたらいいい」など肯定的ではあるが興味がない人もいた。また「男がスカートはくのはわり」という意見もあった。しかし話を聞いていると似合っていればいいみたいな考えがずこしあった。

■家族
昭和の人のなでやはりジェンダーについては「変」「おかしい」という意見が多く違和感を感じないという反応だった。しかし同時に納得してくれる件もあった。




ジェンダー平等に向けて取り組んだこと

私はに興味を持ち、下記のことに取り組みました。

- 1 取り組んだこと ※いつでもどこでも何をしたらか詳しく書きましょう！**
家族には家で夜のご飯食べた後に、友人には大学の休憩時間にジェンダーで学んだ事やそれに参加して思ったことを話しました。
- 2 テーマ選定理由**
以前から人と話してみたい内容だったからです。
- 3 アクション選定理由**
様々な人にジェンダーについて少しでも知ってほしいと思ったからです。

取り組んでみての自分や周囲の変化、感想

自分の変化	周囲の変化
性別についての世間の問題を改めて知りそれを人に伝える、説明するのは改めて難しいことだと感じました。当然ですが人それぞれ意見があるので違う意見でも正しいと思うことがありました。	納得する人や肯定的考えの人ももちろんいましたが逆に少し否定的な意見もありました。例えば「男のは別にいいけど男として、女としての役割はしなければならぬ」という意見が正しいですが否定的と感じました。
感想	
私はこのアクションをしてみてもジェンダーの時のようにみんなが肯定的ではなく肯定も否定もある様々な意見が参戦すると改めて知りました。中には否定的ではあるが正しいことを言っているような意見もあって嬉しい内容だとも思いました。しかし知ること考えが変わるということもあると思いました。私は今後、生物系のジェンダーフリーワーク(男女平等参画)に参画しようと考えています。	

©一般社団法人GENCOURAGE

岩元

普段は文化財について学んだりしています。大学の先生が「こんなのあるよ」って紹介してくださって、参加しました。参加して良かったのは、保育とか、ファッションとか、自分の全く知らない世界でのジェンダーギャップについて深めることができたことです。

ジェンダー平等の実現に向けた My Acton Report

自己紹介

名前： 岩元優芽

所属： 奈良大学文学部
文化財学科



大学一年で司書過程を取っている本の虫です。趣味は、料理と写真、和服を着ることで、漫画や小説などジャンル問わず、読書をしています。

実際の活動

- 1. 実際に産婦人科に行ってみた**
私は、まず主治医に生理前のストレスと生理中の体調不良を相談し、紹介された婦人科へ受診しました。私の受診した医師は、内科と歯科が同じ病院内にあるので、女性しにくいという圧迫感はあるものの、女性らしいという印象は少なかったです。婦人科では、右写真のような様々な資料を無料で配布が行われていました。私の苦手なセクシャルな話題もあまりなかった。
- 2. 「女性と歴史」をテーマに本の選書を行った。**
私が所属している司書過程の自助ゼミNATO組で大学図書館での「女性と歴史」についてのテーマ展示を行うための選書をゼミの先輩方と行っています。身近な部分から歴史をたどったり、逆に資料室では資料が少ないかった歴史を女性の視点からみたなど様々な切り口からの選書をしている最中です。
- 3. 女性の身体と健康について調べた。**
自分で図書館に行き性別違和を持った私でも比較的好みやすい書籍を探したり、大学の先生に参考になる情報源のしっかりしたサイトを教えていただき女性の身体と健康について学びました。図書館の経費で買わないにも関わらず、生活する中で知っておくべきことの多さを知った後、LGBTQ向けに書かれた女性医療についての本も読み、知識を深めました。

ジェンダー平等に向けて取り組んだこと

■ 主に行った活動

- 実際に婦人科に行ってみた。
- 「女性と歴史」をテーマに本の選書を行った。
- 女性の身体と健康についての知識を付けた。

■ 活動を行った理由

自身が性別に違和感を抱えて生活してきたという背景事情から、それで苦しむのは他者と自分が異なるからであり、当たり前だと考えていました。ですが、自分が実際に苦しんでいることは何なのか改めて考えたときに生理不順などの女性特有の体調の変化や自身の身体的性別を受け入れることが難しいことからかかる医師にかかることへの抵抗などが原因だと考え直していた時期に、LGBTQの方や主婦層への医療についてなどに興味を持ち、詳しく調べたいと感じたからです。

感想と展望

私が、この活動を通して学んだことは、自分の身体に関する知識がないことは、決して他人事ではないということです。意外にも、女性が知らない女性特有の病があったり、いき医師にかかるときに何を聞かれるか知らなかったり、更年期障害などの多くの女性がかかる症状をあまり分からないまま夫人になったりと様々な問題があることを知りました。その中でも、医師に行く時間限られている学生や主婦の方、少額という理由で、問題が見えずらLGBTQの方など様々な層に於いて、それぞれにフォーカスして医療健康問題を伝えていくべきだと感じました。身体が劇く運動できる時間が限られているためあまり活動できませんでしたが、「女性の大学受験生向けの健康問題についてのチラシ」の製作やLGBTQの方医療機関に受診しやすいうにするためにできることなどを考えていき、多くの人に広がることジェンダー平等につながることを信じて、活動を継続していきたいです。

配布された資料資料



個人的に読みやすかった本 BEST3



福田

私は普段、仮名書道教育の研究をしています。他の3名と同じく、大学の先生からの紹介で参加しました。今までは、自分の主観的な意見しかなかったのですが、他の参加者の方々の意見を聞いて、ジェンダーに関する様々な価値観や、モヤモヤした経験などを知ることができて、とても良かったと思っています。

ジェンダー平等の実現に向けた MY ACTION REPORT

1dayジェンカレin檜原に参加し、ジェンダー平等の実現に向けて、私は**ジェンダーの視点からの進路支援の一考察**を行いました。

アクションの様子

■ 講義中での発表
奈良教育大学の中で、「教育現場の現場において自分に何ができるか」という題のもと、1dayジェンカレin檜原で得た経験を話かして「ジェンダーの視点からの進路支援の一考察」について考え、発表した。

自己紹介

ふくだ みり
名前：福田 実莉

所属：奈良教育大学大学院修士課程

研究分野：仮名書道教育、左利き

発表の概要

教育基本法、学習指導要領との関わりや奈良県のキャリア教育の現状について整理したうえで、自分の性別に関わらず「自分の進路に応じた進路の選択」ができる生徒を育てるという目標を立て、カリキュラムの編成を考えました。

ジェンダー平等に向けて取り組んだこと

私はジェンダーの視点からみた進路支援のアプローチに興味を持ち、下記のことに取り組みました。

- ① 取り組んだこと
奈良教育大学の講義において、「ジェンダーの教育を取り入れた進路支援」について考察し、発表した。
- ② テーマ選定理由
教育に焦点を出してジェンダーについて考えてみたいと思ったから。
- ③ アクション選定理由
講義の中で、「理系女子」という単語や、「管理職は男性が多い」「女性は接客が向いている」という無意識のバイアスがあることを知り、進路支援におけるジェンダーの視点からのアプローチについて考えたいと思ったから。

アクションの様子

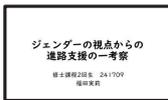
■ キーワード
性の多様性、男女平等、男女共同参画、ゲストティーチャー、自己分析シート、キャリアパスポート

取り組んでみての自分や周囲の変化、感想

自分の変化
1dayジェンカレin檜原に参加する前は、ジェンダーについての知識を持っていたものの、性的マイノリティに關しての配慮にしか焦点がなく、現代に蔓延るジェンダーに関する無意識のバイアスについて考えたことがなかった。1dayジェンカレin檜原に参加したことによって、より「自分事化」することができた。

周囲の変化
講義での発表の後、奈良教育大学の先生方から様々な意見・アドバイスを受講することができた。「発表で考察したカリキュラムは、新たな視点での提案であった」というご意見に加え、ジェンダーをめぐる様々な社会問題が自身のキャリアをデザインすること、どのように関係するのかを考えていくことは、子どもたちが自分の進路選択を考える上で大切なことである」という評価をいただいた。

感想
今回の考察において、1dayジェンカレin檜原での講義で得た意見やニーズを踏まえ、学習指導要領や先生方のご指導を受けながらカリキュラムを考えていくことができ、良い経験となった。今回は概要のみの考察であるため、実現に向けてより具体的な計画を考察していきたい。



1. 学生によるアクションとその成果・課題

櫻井

ここから皆さんそれぞれ取り組んだこととお話しいただきたいと思います。

金城

私のアクションした内容は、友達に一人でもできるような内容にしたいと思い、友達に対してジェンダーについてどこまで知っているかが気になり、心象を調べることにしました。県庁さんなどに行って話するのはまだ自分にはレベルが高いと思ったので、初めの一步として友達と実際に喋ることにしました。

活動をしてみてよかったことは、友達がジェンダーについて知ることができたことです。やっぱり自分だけ知っていても広めることができないので、少しでも多くの人に知ってもらうことで広まっていくのではないかと思ったからです。難しかったことは、友達がジェンダーについてそこまで知ってるわけではないので、どういうふうに簡単に簡潔に、相手に伝えることができるのかというのがすごく難しかったです。私自身、説明が苦手なところもあって、ちょっとぎこちない話し方になったと思うんですけど、頑張っ



て頑張っ

これたのではないかと思いました。

沼田

私のアクションした内容としましては、1dayジェンカレで学んだことや感じたことなどを、友人や家族などいろんな人に話して、ジェンダー平等とは何かとか、現状どのような問題があるのかを共有したことです。

やってみて良かったことは、ジェンダー平等といっても、最初は当事者とか自分の身近なことは少ないと思っちゃうことが多いんですが、話してみると、「女の子は座ってて足を開けちゃいけない」とか、「男の子はかわいいものを好きじゃ駄目」とかいう、そういう点で共有・共感できたことです。たくさんの方が共感してくださって、ジェンダーのことを他人事ではなく、身近に感じてもらうことができ良かったです。

難しかったことは、やっぱり全部というのはあんまり広がってないもので、理解してもらうことが難しく、反対意見とは言いませんが、やっぱりよく思わなかったり、性別に沿った役割が正しいと思う人が何人かいたことです。若い世代の方々はあんまりそういう意見は少なかったんですが、やっぱり上の世代の方は、価値観が変わっていて、そういうのは良くないっていう方が少し多かった気がします。親とジェンダーについて話すのはハードルが高かったですが、チャレンジしました。

岩元

私が主に行った活動は三つあります。一つ目が、自分の通ってる大学図書館での「女性と歴史」というテーマ展示です。この活動を通して、こういうことあったんだとか、逆にこういうときは案外男女平等だったんだ、といういろんなことを知ることができました。元々、伝統とか歴史と言われていたことに懐疑的になった方がいいのかな、と思ったりしました。

二つ目の活動が、女性の体についての理解を深めようということです。私自身、小学校中学校でそういった教育をあまり理解してなかったんですが、自分で実際に産婦人科に行ってみました。行ってみたら、女性の体について書かれた資料が無償で配布されていることを知ったり、そういう取り組みがあることも知れて良かったです。私は元々生理痛がひどくて、受験勉強中に2週間ぐらい寝込んだりして、勉強的に口スしていた経験があります。今は漢方をすすめていただいています。親身になって相談してくれるドクターを見つけ、「何かあったときに駆けつけるところ」ができたのはすごくいいことだと思っています。

三つ目が、医療と性的マイノリティについて調べる活動です。レズビアンと産婦人科というテーマを挙げている本を読んで、性的マイノリティを持っていると、アウトティングをしてしまう恐れがあるので、医療にかかりづらいという話を聞きました。どんな性別であれ、医療に関わることへの抵抗とかがない方がいいと思ったので、この問題を伝えたいと思っています。



福田

私は教育課程の編成という課題に対し、1dayジェンカレで学んだことをどうやって教育に取り入れることができるかを考えました。「性別にとらわれることなく、自分の適性に応じた進路の選択ができる生徒を育てる」というテーマのもと、「ジェンダーの視点からの進路支援の一考察」という題で教育課程の編成を考察し、大学の授業で発表しました。性の多様性は、やはり悩んでいる方でなければ、“自分ごと”化することが難しいテーマだと思います。例えば、私は髪型を刈り込みにしたら「女の子なのに…」と言われた経験があります。こういう小さなモヤモヤは誰しもが経験していることだと思います。そのような身近な経験から、“自分ごと”化することが大事だと思います。授業で発表したときに現職の先生方から「新しい視点での考察、提案でとても良い」というような意見をいただきました。ただ、「カリキュラムが限られている学校という場では実現が難しいかもしれない」という意見もいただいたので、現場の先生方にも意見を頂戴した上で、配慮し、考察を深めていく必要があると思います。



2. アクションを通じた気づきと今後の展望

福田

私は、参加者と、自分自身が経験したジェンダーに関するモヤモヤについて交流した時に、多様なモヤモヤがあることに気が付くことができました。特に、男性の方が持つモヤモヤに対して衝撃を受けました。ジェンダーに関するモヤモヤはそれぞれで違い、多様にあることを知ることができました。この経験はとても良いものだったと思います。

岩元

私は、自分の学んでいることと何か繋げることがあるんじゃないかと考えて、無形文化財（お祭り、だんじり）とジェンダーを繋げて考察しました。だんじりの「女人禁制」は命がけで行う祭事で、身体に触れてしまうリスクや力の差に気を使えないという点も踏まえて、一概に悪いことではないのかな、とも思っていて、女性が事故で亡くなった例があったり、文化を守るために線引きをしているという側面も考えていくと、逆の視点での深まりがありました。

金城

私は、なかなか自分から挑戦していくタイプではなかったので、今回自分でアクションを考えて、実際に行動を起こしてみて、やっぱり一歩踏み出すのが大切なんだと自分の中では思いました。「結果はどうであれ、自分の実際に行動を起こすことは大切ではないか」と思いました。

3. 今後していきたいアクション

金城

日本人だけでなく海外の人にもジェンダーについて知ってほしいという気持ちがあり、スペイン語を使って海外の人向けに講演を開いてみたいです。

沼田

私がしたアクションはほぼ日本人相手だったので、海外の方のジェンダーの意識や価値観について調査してみたいと思いました。

岩元

私は高校受験のときに生理の影響で月に2週間ほど大きく体調を崩したりしていたので、放置しちゃいけないよという啓発リーフレットのような、知識を身につけられるものを作りたいです。また、性的マイノリティを持つ人が医療にかかることに抵抗がある問題について、苦しんでいる人のデータがないことが課題なので、どんな性別の人であれ、医療に関わることに抵抗がなくなるための活動を考えたいです。

福田

私は左利きで書道を勉強していて、「左利きなのに何で？」と言われることでモヤモヤを感じています。これは、ジェンダーのモヤモヤと似ていると感じました。ジェンダーの問題に限らず、多様な価値観や多様な個性を認めることができる生徒を育てるためにはどうすればいいのかということ、教育の中で考えたいなと思っています。

4. 総括

櫻井

皆さんそれぞれのアクションは、誰かに何か伝えるとか、一步踏み出すってすごくハードルがあると思うんですが、素晴らしいことです。やはり、先生の影響はすごく大きいです。学校は平等だと思われがちですが、一人ひとり刷り込まれたものって自然と出てしまうので、ジェンダーや多様性の視点から取り組むことは本当に重要だと思います。

私たちは、これまで多くの方が声を上げてくださったおかげで社会は前に進んで、今、次のステージの入口に立っている、ドアが開いている状態だと思います。若い人は平等の意識を持っているから大丈夫だと期待されがちですが、残念ながらそうではないんです。無意識のうちに刷り込まれているものをしっかりと把握して、再生産しないということを作っていく必要があります。

今、若い人に聞いていると、この先の未来を見通せないという人が非常に多いんです。そんな社会では、変化は起こりにくいと思います。この国の若い人が何か未来に希望を持てるように、しっかり若い人の声を聞いて、若者をその中に入れて、若者を応援するということをぜひしていただけたらと思っています。

ジェンダーギャップ解消まであと123年かかると言われていますが、去年は133年でした。この1年間で10年縮んだんです。ここにいる一人ひとりが日々の生活を変えて、それを周りにちよつとずつ広げていくことができれば、その期間はさらに縮まっていくんじゃないかなと思います。性別に関係なく、一人ひとりが自分らしく生きられる社会を作っていきましょう。